これまでのグランドデザイン

【Ⅰ】 «1982 年» 「大阪 21 世紀計画」 グランドデザインの基軸（第 1 次）

1982 年 2 月、「大阪 21 世紀協会」発足にあたり 21 世紀にふさわしい「世界都市・大阪」の創生を目指す「大阪 21 世紀計画」を策定し、その推進のためのガイドラインとして同計画の『基本理念』『基本構想』を策定した。

『基本理念』としては、21 世紀に向けての大阪の目標には「都市基盤の充実」と「経済と文化の相互刺激の拡大による新しい価値の創造」を掲げた。

『基本構想』としては、行事中心の長・短期ソフトウエア、施設整備を重点とするハードウエアづくりを二本柱の骨格として、下記の方針を掲げた。

・国際的、多面的、継続的行事展開の誘導と条件づくり

・国際交流および文化創造活動の促進とそのための施設充実のプラン作成

・学術的、文化的、経済的情報の発信および政策提言能力の向上とそのための基盤づくり

・魅力的な景観を備えた都市環境形成のための条件づくり

具体的計画として行催事では

◇大阪築城 400 年まつり　◇国際デザインフェスティバル

◇国際見本市　◇国際マラソン　等

施設整備では

◇関西新国際空港　◇迎賓館　◇国際会議場　◇千里国際学術文化施設

◇国立文楽劇場　◇大阪城国際文化スポーツホール　等

を掲げ、その後「国際花と緑の博覧会」、「大阪 21 世紀塾」などが盛込まれた。

「大阪 21 世紀計画」は、産業資本の集積にのみ目を奪われた従来の手法ではなく、「楽しいイベント」を通じて情操を刺激し、文化と経済の一体的デザインにより都市機能の高度化を目指した。21 世紀の都市は、効率第一主義から「人間性豊かな感性の時代」を目指す方向へと舵を切ったのである。

大阪 21 世紀計画宣言

東西に延びる列島の中心近く、豊かな大河が穏やかな海に注ぐ沃野に、日本が世界に向けて開く窓となる都がある。 難波。 それは、神話の時代に生まれてつねに新しく、巨大な城を擁して、その主よりそれを養った住民たちが偉大だった都である。「天下の台所」を営んで国を富ませ、海と陸の道を結んで人びとを出会わせ、耳ざとく国の内外の知恵を集めたのは、商いに励み、腕に誇りを持つその住民たちであった。

大阪。 かつて巷の賑わいの中から近松や西鶴を生み、懐徳堂、適塾の精神から近代化の道を見出したこの都はいま、21 世紀をまぢかにして、新しい任務を担っている。21 世紀こそ、日本にとって活力ある都市の時代であり、ゆとりと冒険心をあわせ持つ都市民の時代だからである。限られた資源を活かし、知恵と情操から限りない富を生み、世界のために新しいライフスタイルを実験することが、 明日の日本の課題である。

この課題に勇敢に迫り、みずから豊かで誇りある生活の場所を作ることが、今日の都市の責任である。かねて住民が主人であった大阪は、まさにそれに適わしい気風を持ち、人材と経験の蓄積に恵まれて、この責任に応えうるであろう。 きょう、大阪は、 ここに公共と民間の熱意を結集し、この街の経済、政治、文化創造の力量を飛躍的に高め、ひとつの美しく品格ある人間の住みかを作って、歴史への贈り物にしようと決意した。

（1983 年 10 月 8 日）

※P4　参照

【Ⅱ】«1992 年» 「大阪 21 世紀計画　新グランドデザイン」（第 2 次）

《文化立都－世界都市・大阪をめざして》

グランドデザインの基軸（第 1 次）は提言から 10 年経過し、「関西国際空港の開港スケジュール決定」、「関西文化学術研究都市の具体化」など、そこに盛込まれた大型事業が次々に実現し当初の目的をほぼ達成した。その間、景気の変動や東西冷戦構造の終結など内外情勢が大きく変化し、その流れに対応した街づくりの視点が必要との考えから、新たに 21 世紀初頭を展望し概ね 10 年間を目標に「新グランドデザイン(第 2 次)」を作成した。

新グランドデザイン（第 2 次)では、市民は大阪が持つ産業、ビジネスによる豊かさとともに文化による精神的な豊かさを希求しているという観点から、世界都市 (※) ・大阪を実現する基本戦略として 『文化立都』 という概念を掲げた。

本来、産業と文化の関わりは車の両輪であり、産業の隆盛が文化の発展を促し文化の発展が産業の充実を増進させ、双方が並び立ってこそ都市は繁栄する。この基本認識を踏まえた 『文化立都』 の実現を 21 世紀の大阪の最大テーマとした。 具体的には、文化の根幹を「学術・技術」、「芸術」、「スポーツ」とし、①学術・技術には「博物館」、②芸術には「美術館」、③スポーツには「競技場」を空間イメージとして、「博物館都市」、「劇場都市」、「競技場都市」といえる都市像が重なり合った都市の実現が 『文化立都』 のイメージとした。

［※］例えば、ニューヨーク、ミラノなどは首都ではないが、その経済力・文化力において一国の牽引車となる都市と定義。「車の無い都市・ベネチア」、「ガウディの建築・バルセロナ」、「ワーグナーの祝祭劇場・バイロイト」などが世界都市の好例としてあげられる。大阪も従来からの経済力に加え文化で都を立てることで都市の品格を高め、日本のみならず世界に貢献していく都市を目指したい、としている。

文化立都宣言

美しく品格ある人間の住みかを作ろうという大阪の決意は、このまちをこよなく愛する人びとの熱意と英知をひとつに集め、今まさに実を結ぼうとしている。

力溢れるこのまちが感動とやすらぎを分かち合う舞台となり、世界中の人々を魅了してやまぬ都であり続けるために、文化に未来を託したい。

文化の躍動と静謐、その煌きと潤いがまちを磨きあげるのだ。来るべき21世紀に向けて文化で都を立てよう。このまちが遥か未来にまで輝き続けることを心から願い、ここに大阪は　文化立都　を宣言する。

（1992 年 5 月 18 日）

※P5　参照

【Ⅲ】 «2003 年» 「大阪 21 世紀計画　グランドデザイン」（第 3 次）

《OSAKA VISION　３つの指針と８つの都市像》

グランドデザインは、大阪府、市、経済団体等の計画と連動しつつそれらを先導する。都市・大阪の目指すべき理念と姿を示し、その実現に向けて採るべき戦略、戦術を明らかにする。

新グランドデザイン（第 2 次）策定から 10 年。大阪を取巻く社会経済環境は大きく変化している。人々の価値観も物の豊かさから心の豊かさへと転換し、そのニーズも個々の感性と価値観を重視し多様化、複雑化している。そのような背景を認識しつつ、新グランドデザイン（第 2 次）で唱えた 『文化立都』 の検証が必要である。

・博物館都市……　博物館、美術館、大学、研究所、図書館など、知的好奇心を刺激する装置が整備されたか

・劇場都市……　あらゆる芸術活動が展開され、人々の自己実現の欲求を満足させているか

・競技場都市……　誰もが自分のレベルで、どこでも楽しみながら体を動かせる場所と時間があり、街全体が競技場の様であるか

という視点で振返ったとき、道半ばとはいえ一定の水準に達したと評価。

『文化立都』 の精神を継承し、「三つの指針」（緊急に着手すべき行動）と目標とする「八つの都市像」を掲げ、そこに「水の都・大阪」の再生運動を盛込んだ。

・三つの指針　①美しい都市・大阪の実現を図る
②水の都・大阪を創生する
③祝祭都市・大阪を目指す

・八つの都市像　①文化のハイブリッド都市　②未来の伝統都市
③エコロジカルな環境都市　④人が主役の都市
⑤文化のプロデューサー都市　⑥文化・産業プラットフォーム都市
⑦イメージ発信都市　⑧文化のムーブメント都市

「水の都・大阪」の再生に関しては、2009 年に水都大阪のシンボルとなる 『水都大阪 2009』 を提案し、行政や経済団体の計画と連携した 「水の都・大阪」再生運動の指針となるなど、大阪の進むべき方向性を提案。

【Ⅳ】 公益法人改革と新たな出発

«2012 年»　内閣府から 「公益財団法人」 に認定

公益法人制度改革により「公益法人認定法」に基く『公益財団法人』に認定され、大阪を中心に関西一円を対象とした広域的な事業を行うことを明確にするため、４月１日から名称を「公益財団法人　関西・大阪 21 世紀協会」に変更し、以下の事業を定款に定めた。

◇関西・大阪の文化力向上計画の提案や機運醸成及びそれらに必要な情報収集と集積・発信事業
◇関西・大阪の経済、社会の活性化に資する事業
◇関西・大阪の魅力と知名度向上を図る事業
◇関西・大阪の伝統文化催事や芸術・芸能の保護と調査研究及び促進と発信事業
◇上記にかかわる人材の育成

«2013 年» 上方文化芸能協会の事業を承継

上方文化・芸能の振興事業および上方伝統行事の保護、育成・継承を図っている。

◇上方の伝統芸能に親しむ会の開催

◇上方の伝統芸能普及誌「やそしま」の発行

◇今宮戎神社「宝恵駕」(無形民俗文化財)への協賛、住吉大社「御田植神事」（重要無形民俗文化財）の共催

«2014 年» 日本万国博覧会記念基金事業の承継

1970 年に大阪で開催された日本万国博覧会の収益金を基金として管理し、その運用益をもって博覧会のテーマである「人類の進歩と調和」にふさわしい国際相互理解の促進に資する活動や文化的活動に助成する事業を継承している。

これまで国内外 114 か国、約 4500 事業、191 億円に及ぶ事業に助成を行ってきており、現在も下記の５分野にわたる幾多の事業に対し毎年、助成を行っている。

◇国際文化交流、国際親善に寄与する活動

◇学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動

◇自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動

◇日本の伝統文化の伝承及び振興活動

◇芸術及び地域文化に関する活動

また、運用益の２分の１に相当する額を大阪府が行う日本万国博覧会記念公園の運営管理に寄附している。

«2014 年» アーツサポート関西（ＡＳＫ）の事業を展開

広く民間から寄付を集め、関西・大阪の文化・芸術分野で活動する団体や個人に助成することで、優れた伝統文化の継承、新しい芸術的価値の創出を進めている。助成にあたっては、寄付者の意向を汲んだ特定の分野を助成するなど、柔軟に対応している。

また、寄付・募金活動にあたっては種々の手法を編み出し、関西・大阪の寄付文化の醸成を図っている。寄付者に対しては当協会の税の優遇措置が適応される。

助成分野は、美術・デザイン、 音楽、 演劇、 ダンス、 映像・演劇、 伝統芸能、特定のジャンルにとらわれない複合的な文化・芸術活動など、多岐にわたっている。